第10回茶の湯文化にふれる市民講座（熊倉功夫氏）

同門栃木

第20号
令和８年４月１日発行
表千家同門会栃木県支部
〒321-2351
日光市塩野室町字前山1237-1
大屋美和子方
電話 070--2902--2317

（題字は、而妙斎宗匠筆）

ご挨拶

表千家同門会栃木県支部
副支部長　天野晃作

楽しく研鑽して参りましょう

桜花の候、表千家同門会の会員様におかれましては、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。平素は同門会活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、この数年、私たちは、茶の道の活動を様々な制約の中で行うことを余儀なくされて参りましたが、昨年の初釜におきましては、濃茶の回し飲みも再開され、活動も本格的になり、喜びに絶えないところでございます。

私も六月には、数奇者としてではありますが、京都の不審菴に招かれて一服いただいて参りました。静寂の佇まいの中に、代々受け継がれてきた心、一期一会の出会い、人と人とのつながりを感じさせられた至福のひとときでございました。

また、京都の街は多くの外国人の方で溢れ、お茶を始めとする日本文化に対する人気もあり、茶道の未来も明るく感じることでありました。

今年は表千家による日光東照宮献茶式も挙行される予定でございます。お茶の心を大切にしながら、楽しい茶会が開催されますことと、表千家同門会のさらなる発展、並びに会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

茶の湯文化にふれる市民講座

令和七年八月二十四日(日)栃木県教育会館において「第十回茶の湯文化にふれる市民講座」が開催されました。講師に熊倉功夫氏をお迎えし、「千利休の小説と映画」と題してご講演をいただきました。

先生は文学博士であり、日本文化史、主に茶道史や日本の料理文化史などをご研究なさっています。市民講座でお話いただくのは三回目となり三八七名の方々が熱心に耳を傾けていました。

先生がご教示された小説や、ご出演なさった映画についてのエピソードを交え、お話くださいました。

ここに内容をご紹介いたします。

千利休にまつわる小説は多数出版されておりますが、今回は、井上靖著「本覚坊遺文」についてのお話でした。千利休没後、世間から身を隠した一番弟子の本覚坊が利休ゆかりの人々と出会い、回想しながら利休の死の意味を探求していくという小説です。

利休没六年後、本覚坊が建仁寺を訪れた際に、住僧である東陽坊と出会い、久しぶりに利休の話をしたその夜、本覚坊は利休の夢を見ます。

利休が茶事を行う傍らで、本覚坊は手燭を持ち出すため水屋に控えています。すると茶室の中から「〝無〟と書いた軸を掛けても、何もなくなりません。〝死〟と書いた軸の場合は、何もかもなくなる。〝無〟ではなくならん。〝死〟ではなくなる。」と、何かに挑むような烈しい口調の声が聞こえてきました。

それは利休の声だったのか、山上宗二かもう一人の連客だったのかは分かりません。けれどこの言葉によって、利休の茶道の悲劇的完成としての「死」は、伝統的東洋思想の「無」即ち悟りの境地さえも超えていたことが示唆されたのでしょう。

また、利休参禅の師である古渓和尚が、秀吉に譴責され九州に島流しされた際に、命をかけて送別の茶会を開いたことにも触れています。利休はとても厳しいお顔をされ、それは秀吉から切腹を命じられて京都を後にする時と同じであったと、本覚坊は語っています。

没十九年後には、古田織部と話をします。織部は、利休が切腹直前に自ら削った茶杓を形見として受け取り「泪」と名づけ、常に利休を身近に感じていました。二人は会話の中で、「利休は切腹を命じられ、自然に死を受け入れたのではないか。」という結論に達します。利休自身も「ひとつの時代が終わった」と言っていたといいます。

最終章で本覚坊は、秀吉の夢を見ます。秀吉が説得する中、利休が「死を受け入れることで自由になりました。自分のお茶が手に入りました。」と言う場面は、「人間が死を迎える時、様々な制約から解き放たれ、本当の自分を見つけることができる。そういうふうに死を迎えたい。」これが小説「本覚坊遺文」の結論であり、熊倉先生の願望でもあると話されました。

映画については、勅使河原宏監督の「利休」で先生が親王役として、当時中学生だった俳優中村獅童さんと共演したことや、撮影秘話をお話しくださいました。熊井啓監督の「本覚坊遺文」、市川海老蔵(現団十郎)さん主演の「利休にたずねよ」については時代考証をされています。

死と相対しながら自らの芸術を貫く「千利休」を題材にした小説や映画はある種、日本人像を描いたものであり、これからも数多く作られていくことでしょうとお話されました。

お話は尽きることなくお名残惜しい閉会となりましたが、会場いっぱいに大きな拍手がひろがりました。

資格者講習会

六月二十八日、不審菴より岡﨑英雄宗匠・吉水輝忠先生をお迎えし、資格者講習会が行われました。

受講者は一六三名でした。

講習課目

実技　「初炭」「茶カブキ」

当日配布する資料の解説

〈初　炭〉

〈茶カブキ〉

支部総会・一般講習会

六月二十九日(日)、岡﨑英雄宗匠・吉水輝忠先生を本部よりお迎えし、栃木県支部総会及び一般講習会が護国会館において開催されました。

受講者は二〇八名でした。

総会講話

「惺斎の話」

講習課目

実技「花所望」「長緒」「薄茶」

〈花所望〉

〈長　緒〉

令和七年度　表彰

令和七年度　叙寿表彰

木村　輝夫　仙波かおる　滝沢　洋子

中村千津子

（会員番号順・敬称略）

令和七年度　支部功労者表彰

河村　寛子　田中　瑞恵　奥村　徳子

島田　和枝　中村千津子　亀山　チイ

（会員番号順・敬称略）

岡﨑英雄宗匠、吉水輝忠先生
船田支部長、菊地副支部長、天野副支部長と
支部功労者表彰を受けた方々

岡﨑英雄宗匠、吉水輝忠先生
船田支部長、菊地副支部長、天野副支部長と
叙寿表彰を受けた方々

教授者講習会

十月十六日㈭、栃木県支部・茨城県支部合同の教授者講習会が護国会館において行われ、不審菴より森淳加史宗匠をお迎えしてご指導をいただきました。

教本による「風炉」の講義の後、「炭点前・続薄茶」の実技をご指導いただきました。

当日、栃木県支部からは三十一名の参加で、内修了生は八名でした。

また、七名の方が再受講されました。

〈炭点前〉

会員研修

和菓子作り体験

九月二十七日㈯、とちぎ福祉プラザにおいて、会員研修を行いました。講師の宇都宮市塙田「御菓子司濱田屋本店」斎藤大聡氏のご指導のもと、二十名の方が参加しました。

〈続薄茶〉

はじめに講師から、材料や基本の色、引き継がれている型などの基礎知識の説明をいただき、和菓子作りの実践に入りました。

お茶席などで目にする季節の和菓子の見本を前に、鮮やかな手つきで練り切りが次々と出来上がっていく過程を見せていただいた際は、同じような和菓子が作れるのか期待と不安もありつつも、参加者は真剣な眼差しを向けていました。

実践では参加者の方が、見本を参考にそれぞれ思い思いの色や型の和菓子を作りあげました。同じものは二つとない、丁寧に作り上げられたもので、和菓子が茶の湯のおもてなしの心に通じることを、あらためて感じることができた研修でした。

支部初釜

令和八年一月二十五日(日)、宇都宮東武ホテルグランデにて支部初釜が開催されました。栃木県知事福田富一様、船田元支部長をはじめご来賓の皆様と二百名の方々が参加されました。

濃茶席

濃　茶　席

濃茶席は県北地区が担当しました。床には猶有斎宗匠の家元襲名内祝いとしていただいたご自筆一行の「和気生嘉祥」、表具も美しい紋様の掛物がかかり、竹一重切に梅と椿、干支の香合が飾られました。嶋台の金銀にあざやかな濃茶の緑と、新春を寿ぐ清々しいお席となりました。

薄茶席

薄　茶　席

薄茶席は両毛地区が担当しました。即中斎筆の「一花開天下春」が床に掛けられ、その文字に寄り添うように、瓢の花入れに季節の花が入れられました。香合は末広、蓋置は鶴亀など、新春縁起の華やいだしつらえでお茶がふるまわれました。

薄　茶　席

点心席

点心席は県南地区が担当でした。床に而妙斎筆「呼瑞雲」の掛物、丸三宝にのし押し午ノ鈴。ひとり一人に年酒を一献、参加された皆様は食事をしながら歓談されました。福引きも行われ楽しいひとときを過ごされました。

点　心　席

伝統文化親子体験教室

十一月二日・十六日・三十日の三日間、護国会館において「第三回茶の湯文化にふれる体験教室」が開催されました。宇都宮市内の小学校に通う四～六年生と保護者の方が、午前の部と午後の部にそれぞれ約二十名参加しました。一日に二講座ずつ行い、計六回の講座を通して茶の湯について熱心に学んでいました。

【十一月二日(日)　第一・二回】

「茶の湯を体験しよう」(表千家不審菴編)を参考にしながら茶の湯の歴史などを学びました。お茶とお菓子のいただき方や点て方を体験し、茶室での立ち居振る舞いについて練習しました。

【十一月十六日(日)　第三・四回】

自分でお茶を点てて飲んだ後、二つのグループに分かれて、お客様と亭主の役割を交代しながら行いました。

亭主は、お菓子やお茶碗の正面をお客様に向けてさし上げることで、常にお客様を気遣っていること。お客様は、感謝をしながらお菓子やお茶をいただいていることなどを、実際に体験しながら学んでいました。

また、お茶碗を手にとって拝見する時、その絵柄から季節の美しさを感じて、笑顔になる様子も見られました。

【十一月三十日(日)　第五・六回】

三日目は、略盆点ての模範点前を見て、グループに分かれて体験をしました。亭主・半東・正客の役割を交代しながらポットを使って薄茶を点てたり、いただいたりしました。

第一回から練習してきたことの総まとめの体験でしたが、茶筅を振るのにも慣れ、お客様においしくいただいてもらおうと心を込めて薄茶を点てているのが窺えました。参加者からは「楽しかったので、家でもお茶を点てたい。」「また来年も参加したい。」「礼儀や思い遣りを学び成長したように感じた。」などの声が寄せられました。

体験教室は、「総合芸術といえる茶の湯は、日本の伝統文化であり、大切に継承していくべきものであるとともに、講習生の皆さんにはこれからも折に触れて茶の湯に親しんでいってほしい。」という講師代表の挨拶で終了しました。

学校茶道

茶道の魅力

作新学院小学部
六年　齋藤　蕾

私たち作新学院小学部では、五・六年生女子の必修クラブで、茶道を学んでいます。男子にお客様になってもらい、お茶をふるまう授業をしたり、小学部の園児体験教室では、参加してくださった幼稚園児とその保護者の方に、お点前を披露したりします。このような体験をすることで、自分の学んだ作法を、お客様がどのように感じるかをあらためて考えることができます。日々、お点前の知識を学んではいますが、茶道を違う方向から見てみると、自分の知らない景色に出会うことができ、新しい発見があります。茶道を始めて二年ですが、これからも学びを続け、茶道の魅力をたくさんの人と共有できたらいいなと思います。

青年部の活動

青年部部長　福田　智美

令和七年五月四日(日)に益子参考館茶会を行いました。テーマは「茶でつむぐ」。

濱田庄司氏の生誕一三〇年記念にあわせ開催させていただきました。今回は、初めて工房をお借りし茶席をしつらえました。濱田庄司氏が作成した火鉢を風炉にみたて、栃木県青年部顧問の江田薫氏の釜を使用しました。益子町出身の職人の方に依頼し、山山という銘のお菓子を作成していただきました。

当日は益子町陶器市が開催されていたため、観光客の方々にも一服していただくことができました。お席には濱田庄司氏がイギリスで購入し使用していたバタフライテーブルをお借りしました。そこからは、美しい新緑が臨めました。

今回のテーマである「茶でつむぐ」ですが、益子参考館で茶会を行わせていただき、庄司氏と孫の友緒氏の作品をお借りできたこと。また、釜は江田氏より青年部のためにと寄贈されたものであること。このような、お茶によりつむがれたご縁に、深く感謝した一日になりました。

茶席の風景（工房）

「山山」菓子

お茶会だより

佐野市文化祭（４月27日）

席主　小林　富恵 先生

清風会茶会（４月29日）

席主　生澤社中４名〈大武有三子・川俣　成子／上田　徳子・三松　英子〉

佐野市城山記念館月釜（６月17日）

席主　佐野市茶華道協会

宇都宮月釜（７月13日）

席主　奥村　徳子 先生

栃木県芸術祭（10月12日）

席主　岡田　　裕 先生

足利市民文化祭（10月19日）

席主　高山　初子 先生

睦会茶会（10月13日）

席主　斉藤　悦子 先生

席主　大久保幸子 先生

小山市文化祭（11月16日）

席主　岡田　　裕 先生

霜月茶会（11月24日）

席主　眞木　和子 先生

令和８年度　お茶会のご案内（変更がある場合があります）

行事名	場所	日程
佐野市民文化祭茶会	城山記念館	４月26日
清風会茶会	小山市桑市民交流センター	４月29日
栃木県芸術祭	田母沢御用邸	５月31日
日光茶会	日光山輪王寺	10月４日
那須地区芸術祭	黒磯いきいきふれあいセンター	10月４日
足利市民文化祭	足利フラワーパークプラザ	10月18日
矢板市文化祭	矢板市文化スポーツ複合施設	11月３日
睦会茶会	宇都宮市文化会館	未定

行事名	場所	日程
月釜（表千家担当）		
足利市	木村邸	５月17日
宇都宮市	城址公園清明館	９月13日
佐野市	城山記念館	12月20日
宇都宮市	宇都宮市文化会館	12月
足利市	白石山房	２月21日
青年部		
益子参考館茶会	益子参考館	未定

◇本部からのお知らせ◇

𡧓寿表彰について

来年度（令和九年度）の𡧓寿表彰の対象者は左記の条件を満たす方です

一、昭和二十六年のお生まれで、同門会に継続して二十年以上在籍（平成十九年以前に入会）の方

二、昭和二十五年以前のお生まれで、同門会に継続して二十年以上在籍の方

一に該当する方は、京都で執り行われる「𡧓寿お祝いの会」にて表彰を受けることができます。「𡧓寿お祝いの会」に出席できない方は、支部総会の席上にて表彰されます。

二に該当する方は、支部総会の席上にて「𡧓寿表彰」を行います。

＊お申し出方法

ハガキに「𡧓寿表彰申請書希望」とし、

・所属支部　・会員番号　・郵便番号

・住所　・氏名　を明記の上、

ご本人から本部事務局へ申請用紙を請求してください。

＊申請期限　本年十二月末日

詳細につきましては『同門』七月号（予定）をご覧下さい。

申請書は秋頃にお送りいたします。

新支部役員　令和八年度～十年度

四月一日付で同門会本部より次の方が役員に委嘱されました。

支部長　船田　元

副支部長　菊地　正幸　天野　晃作

岩渕千恵子　山本　茂美

事務長　大屋美和子

会計　雨谷　厚子　石渡　洋美

幹事

滝澤香代子　高山　初子　井野口敬子

北島三千代　関根　容子　眞貝　越子

小暮　容子　早乙女和義　八下田啓子

小竹　和江

幹事補佐

村上　佳彦　小畑　宏子　田口　和彦

小寺　幸枝　林　利香　中島　勝久

岡田　有紀　蕎麦田元晴　成瀬　雅美

小林　宏子　安川　明子　大木ひろみ

吉原　明美　二宮　正子　生澤　幸代

田熊　五月

参与となる方　大森　和恵

退任される方

古橋　智子　百武　待代　石塚　晴子

支部のためにご尽力いただき、ありがとうございました。

栃木県支部新事務所

〒321-2351　日光市塩野室町字前山一二三七－一

大屋美和子　方

TEL　070-2902-2317

Email　tochigi_domonkai@omotesenke.jp

令和８年度 行事予定

月日	行事名	場所	備考
６月９日(火)	第27回 日光東照宮献茶式	日光東照宮	ご奉仕：猶有斎千宗左 宗匠
８月23日(日)	第11回 茶の湯文化にふれる 市民講座	作新学院聴蛙館	講　師：千家十職塗師 十三代　中村　宗哲 氏 演　題：「茶の湯の塗物づくり」
10月24日(土)	資格者講習会	護国会館	講　師：井上　順一 宗匠 課　目：「初炭」「台飾」「廻花」 当日配布資料の解説
10月25日(日)	支部総会および 一般講習会	護国会館	講　師：井上　順一 宗匠 講　話：「即中斎の話」 課　目：「且座」「薄茶」
12月10日(木)	教授者講習会	茨城県護国神社 (水戸市)	講　師：井上　順一 宗匠 教　本：「炉」 実　技：「炭所望」「濃茶」「薄茶」
１月	支部初釜	未定	

※今後変更があった場合には、すみやかに連絡をいたします。
また、表千家ホームページの新着情報にて随時お知らせいたします。

会員研修会のご案内（募集）

研修名	和食の基礎を学ぼう
予定日時	７月18日(土)　10時～15時
場所予定	とちぎ福祉プラザ（宇都宮市）
講師	上田　友子 氏（フードコーディネーター）
参加費	8,500円
募集人数	20名

(はがき裏)

会員研修希望
郵便番号
住所
氏名
会員番号
電話番号

(宛　先)

切手

321-0139
宇都宮市八幡台一〇-一八
眞貝越子 方
表千家同門会栃木県支部
研修部 行

(申し込み方法) 郵便はがきに右記の要領にてご記入の上、研修部宛にお送りください。４月20日より受付開始にて、先着順とさせていただきます。参加が決まりました方には詳細のご案内を差し上げます。

問合せ：TEL　090-1503-0810（眞貝）

編集後記

皆様のご協力のもと、18号から20号までを担当させていただきました。
３年間ありがとうございました。
次回よりメンバーが一新されます。

広報部　眞貝、林、早乙女、小竹
小林、小寺、岡田(有)

〈訃　報〉

今泉喜美子 先生　令和７年３月６日 享年90歳

先生は長きにわたり支部の運営と発展のためにご尽力くださいました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

「お茶会だより」では、各地区で行われているお茶会の様子をできるだけ多くご紹介したいと考えております。つきましては、お茶会の情報を支部までお寄せいただければ幸いです。